特集「たけはらファン」はじめました。 Vol.6

第６回目となる今回は、山口県岩国市出身の農家で、令和３年２月から田万里町で蓮根栽培を開始した株式会社笑福蓮根の浅海普大朗さんにお話を伺いました。

●「岩国れんこん」の魅力

私は山口県岩国市の出身で、元々は岩国市で蓮根の栽培をしていました。令和３年２月頃に家庭の事情で、妻の実家がある東広島市三永に引っ越してきた時に近場で蓮根栽培に適した農地を探していました。近隣市町やJAに相談をしたところ、竹原市役所の方が一番親身に相談にのってくださり、農地も紹介してくださったので、竹原市田万里町で栽培を開始しました。現在は約2.4ha栽培していますが、今後まだまだ拡大していきたいと思っています。

岩国出身という事で、蓮根の中でも「岩国れんこん」を栽培しています。一般の蓮根は穴が８つありますが、「岩国れんこん」は、穴が９つあるのが特徴です。特に、白花種にこだわって栽培しているので、収穫はとても大変ですが、食感が柔らかくもちもちしていて、焼いて食べると美味しさがそのまま伝わってきます。また、繊維が多くて、割ると糸を引くのも特徴です。

市内では、季節によりますが約10店舗に出荷しており、トラットリアM、行天、ますや、とんかつ義、ブランシュなどに出荷しています。

●竹原で営農を開始して

田万里で農業を開始して良かったと思うのは、地域の方の「情の厚さ」です。最初は新参者ということで苦労もありましたが、一度仲良くなると収穫中にお茶菓子や野菜を持ってきてくれたり、蓮根を買いに来てくれたりと気にかけてくださります。私の知らないところで営業してくれていたこともありました。

また、お店に営業に行くと「ええよええよ」とすぐに仕入れてくれてくださるので、新たな挑戦を応援してくれるような素地があるのもありがたいです。素敵なシェフの方も多いので、卸しているお店にはよく食事に行かせていただいています。私の蓮根をいつもおいしく調理していただいて、とても苦労が報われます。

農業の環境としても、田万里は砂が大きくて筋が入ってしまうなどデメリットもありますが、水質・水温などをトータルで見ると、とても美味しい蓮根ができる環境が整っています。ただ、鹿の被害が多いので、これには困っています。

ちなみに、会社名の「笑福蓮根」は「笑う門には福来る」から取っていますので、ぜひ竹原の方にも私の蓮根を食べていただいて、笑顔になっていただければと思います。興味のある方はインスタグラム「笑福蓮根」でご連絡下さい。

浅海（あさうみ）　普大朗（しんたろう）さん プロフィール

山口県岩国市出身。昭和62年生まれ。岩国市で蓮根の栽培を開始。

令和３年２月に妻の実家がある東広島市三永に引越した後、田万里町で約2.4haの農地を集積して営農を継続。

広島県内では生産者が少ない「岩国れんこん」の白花種にこだわって栽培している。

▲重機で表土を起こした後に「くわ掘り」で一つ一つ丁寧に手作業で収穫していく。

▲笑福蓮根は県内約50店舗、市内約10店舗に出荷している。（写真はトラットリアM）